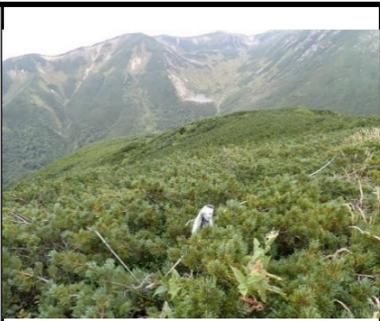


令和5年度 保護林モニタリング調査結果 総括整理表

資料 1

1. 北アルプス(金木戸川・高瀬川源流部)森林生態系保護地域

保護林名	北アルプス(金木戸川・高瀬川源流部)森林生態系保護地域	 プロット4 遠景	 プロット1 概観	 ライチョウ
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局中信森林管理署・飛騨森林管理署			
所在地	長野県大町市・岐阜県高山市			
面積	8099.39ha			
設定・変更年	平成6年3月22日			

保護林概況写真	保護林の概要等		過去のモニタリング実施概況
	保護林の概要 (設定目的)	日本海型気候から太平洋型気候への推移帯である本州中部に位置し、北アルプス(飛騨山脈)を代表する原生的で多様な天然林が存在している。その生態系を保護・管理し、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林施業・管理技術の発展、学術研究等に役立てるため、保護林として設定する。	結果概要 (調査実施項目・調査手法含む) H29保護林モニタリング現地調査 調査項目 ・森林調査(毎木調査・植生調査・定点写真撮影) ・植物相調査 ・高山植生等調査
	モニタリング実施間隔	10年	
	法令等に基づく指定概況	土砂流出防備保安林、砂防指定地、中部山岳国立公園(特別保護地区・第1種特別地域)、鳥獣保護区(特別保護地区・普通地区)	実施時期・回数 保護林モニタリング現地調査(中信署管内:H21, H25, H29、飛騨署管内:H20, H24, H30) 森林生態系多様性基礎調査(H15, H20, H25)

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	稜線付近は林地外であり、それ以外は天然生林であった。
樹木の生育状況	資料調査/森林概況調査/森林詳細調査	大きな変化は確認されなかった。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	大きな変化は確認されなかった。
病虫害等発生状況	資料調査/森林詳細調査	病中獣害による大きな変化は確認されなかったが、一部で地震による急斜面岩礫の崩壊が確認された。
高山植生等の生育状況	資料調査/森林概況調査/森林詳細調査	大きな変化は確認されなかった。
論文等発表状況	資料調査	近年発行された文献が1件確認された。

評価・課題等	当保護林は、笹ヶ岳、黒部五郎岳等に囲まれた金木戸川上流域と、槍ヶ岳、大天井岳等に囲まれた高瀬川源流部に位置する山岳地帯に指定されており、山地帯上部から高山帯にかけての特色ある森林形態を示している。 水俣川から水俣乗越にかけての斜面には亜高山帯植生が見られ、斜面の下部から中腹には、太平洋型のシラビソ-オオシラビソ群集、斜面中腹から上部にはダケカンバ群落が発達していた。 また、槍ヶ岳を中心に東鎌尾根や西鎌尾根、双六岳の主稜線には高山帯を特徴づけるハイマツ群落が発達しており、山頂周辺や山稜斜面の不安定な砂礫地には高山荒原植物群落も見られた。 過年度調査と比較して大きな変化は確認されず、保護林の健全性は保たれていると考えられた。 なお、これまでの調査ではニホンジカの影響などによる森林や高山植生群落の顕著な変化は確認されていないが、周辺の保護林ではニホンジカの被害や痕跡が確認されている。また、気候変動や夏の渇水等により高山植生に影響が生じる可能性も考えられるため、今後も定期的にモニタリングを継続することが重要である。
--------	--

令和5年度 保護林モニタリング調査結果 総括整理表

2. 北アルプス(黒部・五竜・針ノ木・白沢天狗)生物群集保護林

保護林名	北アルプス(黒部・五竜・針ノ木・白沢天狗)生物群集保護林				
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局・富山森林管理署・中信森林管理署				
所在地	富山県立山町・長野県大町市				
面積	10752.87ha				
設定・変更年	平成3年4月1日設定、平成30年4月1日再編				
		プロット1 林況			
			プロット3 林況		
					
			針ノ木雪渓		
保護林概況写真		保護林の概要等		過去のモニタリング実施概況	
		<p>保護林の概要 (設定目的)</p> <p>富山県に位置する黒部峡谷は、北アルプスの長期間にわたる隆起と侵食により、立山連峰と後立山連峰の間を流れる黒部川において形成された日本一深い峡谷である。地形は急峻で岩崖が広範囲に出現し、岩石急斜面植物群落、乾性及び湿性崖植物群落が分布し、山頂付近には高山風衝わい性低木群落、高山風衝草原、高山荒原草原、などが広範囲に生育している。昭和31(1956)年9月7日に国の史跡名勝特別天然記念物に指定されている。</p> <p>また、立山の山崎圏谷は、その圏谷と堆石丘が北アルプスの中で立派なこと及び日本に氷河があった証拠として説明されたことから発見者の山崎直方博士を記念(1905年石井逸太郎氏命日)して名付けられた。昭和20(1945)年2月22日には、国の史跡名勝天然記念物に指定されている。</p> <p>五竜岳(2,814m)から南北の双峰を持つ鹿島槍ヶ岳(2,889m)にかけての一带は、地域のシンボルとして親しまれており、高山帯の原生的な植生と相まって、アルプス特有の特異な地形・地理を有している。</p> <p>爺ヶ岳(2,670m)及び針ノ木岳(2,821m)周辺はアルプス特有の山岳景観を呈しており、針ノ木大雪渓は特に有名、亜高山帯から高山帯にかけて、貴重な植物が豊富に分布している。これら一帯の地域の貴重な森林生態系の保護・管理を図る。</p>		<p>結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)</p> <p>H29保護林モニタリング現地調査 調査項目 ・森林調査(毎木調査・植生調査・定点写真撮影) ・植物相調査 ・高山植生等調査</p>	
モニタリング実施間隔		10年			
法令等に基づく指定概況		水源かん養保安林、土砂流出崩壊防備保安林、雪崩防止保安林、砂防指定地、中部山岳国立公園、特別史跡名勝天然記念物「白馬連山高山植物帯」・「黒部狭谷附猿飛ならびに奥鐘山」・「立山の山崎圏谷」、鳥獣保護区		実施時期・回数 保護林モニタリング現地調査(H21, H25, H29) 森林生態系多様性基礎調査(H12, H17, H22, H27, R2) (H15, H20, H25, H30, R5)	

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	北アルプスの主稜線付近は林地外であり、それ以外の斜面や黒部峡谷、白沢天狗山付近は天然生林であった。
樹木の生育状況	資料調査/森林概況調査/森林詳細調査	大きな変化は確認されなかった。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	大きな変化は確認されなかった。
病虫害等発生状況	資料調査/森林詳細調査	ツキノワグマによる立木への剥皮が増加したが、全体としては植生被害の状況は少なかった。
論文等発表状況	資料調査	近年発行された文献が14件確認された。特に、氷河に認定されたカクネ里雪渓に関連する文献が多かった。
事業・取組実績・巡視実施状況等	聞き取り調査	生息状況調査としてセンサーカメラを設置している。また、森林官及び署内職員が巡視を実施している。(富山署)

評価・課題等	<p>当保護林は、黒部峡谷や立山の山崎圏谷、高山帯の原生的な植生によるアルプス特有の特異な地形・地理を有し、爺ヶ岳及び針ノ木岳周辺はアルプス特有の山岳景観を呈しており、また亜高山帯から高山帯にかけて、貴重な植物が豊富に分布している。</p> <p>白沢天狗山東側の斜面では、ブナ、ミズナラ、ネズコ等から構成される落葉広葉樹林からコメツガ等が優占する亜高山帯針葉樹林が発達していた。なお、プロット1付近ではツキノワグマによる常緑針葉樹の剥皮が確認されており、今後被害木が枯死したり被害が周辺に拡大したりしないか注意する必要がある。</p> <p>また、鹿島槍ヶ岳から針ノ木岳、蓮華岳にかけての稜線付近にはハイマツ群落のほか高山風衝草原や雪田植生が見られ、多くの高山植物が確認された。</p> <p>過年度調査と比較して大きな変化は確認されておらず、保護林の健全性は保たれていると考えられるが、北アルプスでは近年ニホンジカが稜線付近で確認されており、ニホンジカの食害により高山植生に影響が生じる可能性があるため、今後も定期的にモニタリングを継続することが重要である。</p>
--------	---

令和5年度 保護林モニタリング調査結果 総括整理表

3. 雨飾・天狗原山生物群集保護林

保護林名	雨飾・天狗原山生物群集保護林	 プロット1 林況	 プロット2 林況	 ミョウコウトリカプト
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局中信森林管理署			
所在地	長野県小谷村			
面積	1565.06ha			
設定・変更年	平成3年4月1日(昭和56年風致保護林)			
保護林概況写真		保護林の概要等		過去のモニタリング実施概況
		保護林の概要 (設定目的)	日本海型気候帯に属し、我が国有数の豪雪地帯である雨飾山(1,963m)、天狗原山(2,197m)周辺におけるミヤマナラ、コメツガ、ブナ、オオコメツツジ、ミヤマハンノキ等から構成される極盛相の植物群落を保護する。	結果概要 (調査実施項目・調査手法含む) H29保護林モニタリング現地調査 調査項目 ・森林調査(毎木調査・植生調査・定点写真撮影) ・植物相調査 ・高山植生等調査
		モニタリング実施間隔	10年	
		法令等に基づく指定概況	土砂流出防備保安林、妙高戸隠連山国立公園(第1種・第2種・第3種特別地域)	実施時期・回数

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	雨飾山、金山、天狗原山周辺は林地外であり、それ以外は天然生林であった。
樹木の生育状況	資料調査/森林概況調査/森林詳細調査	大きな変化は確認されなかった。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	大きな変化は確認されなかった。
病虫害等発生状況	資料調査/森林詳細調査	風雪害、凍害が一部で確認されたが、全体としては植生被害の状況は少なかった。
高山植生等の生育状況	資料調査/森林概況調査/森林詳細調査	大きな変化は確認されなかった。
論文等発表状況	資料調査	近年発行された文献が1件確認された。

評価・課題等	当保護林は日本海型気候帯に属し、我が国有数の豪雪地帯にあり、ブナ、カエデ等を中心とした落葉広葉樹林からオオシラビソ等の亜高山帯針葉樹林、ハイマツ群落や高山植生群落まで多様な植生が確認された。森林詳細調査において、一部に風雪害の被害が確認されたが、過年度調査と比較して大きな変化は確認されず、保護林の健全性は保たれていると考えられた。 また、踏査ルート上の大海川沿いには湿原が広がっており、ヨシやリュウキンカのような湿生植物が多く確認されたほか、金山から天狗原山にかけての稜線部では、アオハツガザクラやチングルマのような高山植物も多数確認された。他にもミョウコウトリカプト、トガクシゴメグサ等の分布域の限定された種が確認され、地域固有性の高い植生が維持されている。 また、雨飾山は日本百名山であることから登山者も多く、オオバコが登山道沿いに山頂付近まで広範囲に確認されており、天狗原山の稜線部に生育しているハクサンオオバコとの交雑が懸念される。今後は外来種等を含めて登山者の植生への影響には注意が必要である。
--------	---

令和5年度 保護林モニタリング調査結果 総括整理表

4. 北アルプス(蝶ヶ岳・大天井岳・槍ヶ岳・穂高岳)生物群集保護林

保護林名	北アルプス(蝶ヶ岳・大天井岳・槍ヶ岳・穂高岳)生物群集保護林	 プロット3 林況	 ニホンザル	 ヒメヤマウズラ
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局中信森林管理署			
所在地	長野県松本市・安曇野市			
面積	7161.15ha			
設定・変更年	平成3年4月1日(平成30年4月1日再編)			
保護林概況写真		保護林の概要等		過去のモニタリング実施概況
		保護林の概要 (設定目的)	前穂高岳(3,090m)、奥穂高岳(3,190m)、北穂高岳(3,106m)、槍ヶ岳(3,180m)等の我が国有数の山岳が連なる上高地・上流部の地域は、我が国有数のカールである涸沢カールをはじめとする氷河地形や特徴的な稜線、大小様々な滝、屏風岩等、豊かな自然景観を誇っている。中部山岳国立公園の核となっているばかりでなく、世界的にも知名度の高い、日本を代表する山岳景勝地である。コマツガ、シラビソ、ダケカンバ等から構成される亜高山帯、ハイマツ等から構成される高山帯、さらに大天井岳(2,922m)の山頂部に広がるコマクサ、タカネスミレ等から構成される高山植物群落がある。	結果概要 (調査実施項目・調査手法含む) H29保護林モニタリング現地調査 調査項目 ・森林調査(毎木調査・植生調査・定点写真撮影) ・植物相調査
		モニタリング実施間隔	10年	
		法令等に基づく指定概況	水源かん養保安林、土砂流出防備保安林、保健保安林、砂防指定地、特別史跡名勝天然記念物、中部山岳国立公園、鳥獣保護区	実施時期・回数

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	稜線付近は林地外であり、それ以外は天然生林であった。
樹木の生育状況	資料調査/森林概況調査/森林詳細調査	大きな変化は確認されなかった。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	大きな変化は確認されなかった。
病虫害等発生状況	資料調査/森林詳細調査	風雪害、凍害が一部で確認されたが、全体としては植生被害の状況は少なかった。
論文等発表状況	資料調査	近年発行された文献が7件確認された。特に、地質に関連する文献が多かった。

評価・課題等	<p>当保護林は槍ヶ岳から奥穂高岳を経て西穂高岳までの稜線から東側の梓川までの斜面と、槍ヶ岳から大天井岳、常念岳を経て蝶ヶ岳・大滝山に至る稜線の東・西側の斜面に位置する。亜高山帯下部にはシラビソ、オオシラビソ、コマツガ、ネズコ等の常緑針葉樹林が見られ、その上部にはダケカンバ群落が分布し、稜線付近の高山帯にはハイマツ群落や雪田植生、風衝矮性低木群落等が確認された。過年度調査と比較して大きな変化は確認されず、保護林の健全性は保たれていると考えられる。</p> <p>また、保護林外であるが梓川沿いや横尾付近においてニホンジカの食痕が確認されており、今後のニホンジカの動向には注意が必要である。また当該保護林には日本百名山が3座あるだけでなく、3,000m級の山々が連なることから登山者も多く、登山者の植生への影響にも注意が必要である。</p>
--------	---

令和5年度 保護林モニタリング調査結果 総括整理表

5. 鷲羽岳・硫黄・高瀬渓谷生物群集保護林

保護林名	鷲羽岳・硫黄・高瀬渓谷生物群集保護林	 プロット1 林況	 プロット3 林況	 噴湯丘	
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局中信森林管理署				
所在地	長野県大町市				
面積	2550.3ha				
設定・変更年	平成6年4月1日(平成30年4月1日再編)				
保護林概況写真		保護林の概要等		過去のモニタリング実施概況	
		保護林の概要 (設定目的)	本保護林は鷲羽岳(2,924m)の南・東斜面と真砂岳(2,862m)の南斜面に位置し、亜高山帯に至る高山草原、低木群落等の原生的な植生を保護する。 また、硫黄岳(2,554m)と赤岳(2,416m)を結ぶ硫黄尾根の北斜面は、硫気噴出の影響等により全山にわたって植生がほとんどない状況となっており、特異な地理となっている。		結果概要 (調査実施項目・調査手法含む) H29保護林モニタリング現地調査 調査項目 ・森林調査(毎木調査・植生調査・定点写真撮影) ・植物相調査
		モニタリング実施間隔	10年		
		法令等に基づく指定概況	土砂流出防備保安林、砂防指定地、史跡名勝天然記念物、中部山岳国立公園(特別保護地区、第1種特別地域)、鳥獣保護区(特別保護地区、普通地区)		実施時期・回数

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	南真砂岳及び硫黄岳より上流側と噴湯丘の付近は林地外であり、それ以外は天然生林であった。
樹木の生育状況	資料調査/森林概況調査/森林詳細調査	大きな変化は確認されなかった。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	大きな変化は確認されなかった。
病虫害等発生状況	資料調査/森林詳細調査	ニホンジカによる立木への剥皮が確認され、風雪害、凍害が一部で確認された。
論文等発表状況	資料調査	近年の学術研究等での利用は確認されなかった。

評価・課題等	<p>当該保護林は、鷲羽岳の南・東斜面と真砂岳の南斜面に位置しており、湯俣川左岸はカラマツ、キタゴヨウ、コマツガ等から構成される亜高山帯針葉樹林の原生的な植生が確認された。チョウセンゴヨウに剥皮がみられたほか、竹村新道沿いの立木に新しい剥皮が見られるが、過年度調査と比較して大きな変化は確認されておらず、保護林の健全性は保たれていると考えられる。</p> <p>また、硫黄岳の北斜面の上部にはダケカンバ群落、下部にはコマツガ、シラビソ、オオシラビソ、ネズコ等の亜高山帯針葉樹林が分布している。硫黄岳から赤岳を結ぶ硫黄尾根は硫気噴出の影響等により植生が少なく裸地化しており、岸壁・岩隙植物群落が分布している。</p> <p>なお、湯俣川沿いには河原に温泉が噴出しており、国天然記念物「高瀬渓谷の噴湯丘と球状石灰石」の噴湯丘とともに特異な景観が見られるが、来訪者による噴湯丘の破損が懸念されている。</p> <p>令和5年より保護林の下流側の湯俣山荘が再開され、今後登山者が増加すると考えられることから、登山者による植生への影響にも注意が必要である。</p>
--------	---

令和5年度 保護林モニタリング調査結果 総括整理表

6. 梓川・霞沢・焼岳生物群集保護林

保護林名	梓川・霞沢・焼岳生物群集保護林		プロット3 林況		プロット5 概観		焼岳火口
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局中信森林管理署						
所在地	長野県松本市						
面積	2572.24 ha						
設定・変更年	平成3年4月1日(平成8年梓川・霞沢、梓湖保護林に分割)、平成30年4月1日再編						
保護林概況写真		保護林の概要等			過去のモニタリング実施概況		
		保護林の概要 (設定目的)	焼岳(2,455m)は、大正4年(1915年)の大爆発による泥流で梓川をせき止め大正池を出現させた、現在も活動している北アルプス唯一の活火山である。梓川は、上高地からV字谷溪谷と水力発電用ダム湖(奈川渡ダム)を経て松本市安曇に至っており、梓川沿いのミズナラ、カエデ、トチノキ等から構成される貴重な天然生広葉樹林等を一体的に保護する。			結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)	H29保護林モニタリング現地調査 調査項目 ・森林調査(毎木調査・植生調査・定点写真撮影) ・植物相調査 ・高山植生等調査
		モニタリング実施間隔	10年				
		法令等に基づく指定概況	水源かん養保安林、保健保安林、砂防指定地、特別史跡名勝天然記念物、中部山岳国立公園(特別保護地区、第1種・第2種特別地域)、鳥獣保護区(普通地区)			実施時期・回数	保護林モニタリング現地調査(H21, H25, H29)

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	焼岳周辺及び霞沢岳から六百山にかけての稜線付近、大正池の下流側から上高地トンネル付近までの梓川沿いなどは林地外であり、それ以外はおおむね天然生林であるが、焼岳南麓付近に一部人工林がある。
樹木の生育状況	資料調査/森林概況調査/森林詳細調査	大きな変化は確認されなかった。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	大きな変化は確認されなかった。
病虫害等発生状況	資料調査/森林詳細調査	オオシラビソの凍裂、ニホンジカによる剥皮が確認されたが、全体としては植生被害の状況は少なかった。
高山植生等の生育状況	資料調査/森林概況調査/森林詳細調査	大きな変化は確認されなかった。
論文等発表状況	資料調査	近年発行された文献が8件確認された。特に、焼岳に関連する文献が多かった。

評価・課題等	<p>当該保護林は、霞沢岳周辺及び焼岳周辺、梓川の大正池から沢渡までの間の斜面に位置し、高山帯から山地帯まで多様な植生が見られる。霞沢岳周辺にはハイマツ群落等の高山植生が分布しており、高山植物が確認された。また、亜高山帯に標高が下がるにつれてダケカンバ群落や高茎草本群落、亜高山帯針葉樹林が分布していた。</p> <p>焼岳の東斜面にはダケカンバ群落が分布しており、北側の新中尾峠付近や南側には亜高山帯針葉樹林が分布している。また、中ノ湯付近や梓川沿いにはブナ群落や針広混交林が分布している。</p> <p>森林詳細調査において、過年度調査と比較して大きな変化は確認されておらず、保護林の健全性は保たれていると考えられるが、ニホンジカの被害や痕跡が確認されており、また、気候変動や夏の渇水等により高山植生に影響が生じる可能性も考えられるため、今後も定期的にモニタリングを継続することが重要である。</p>
--------	--

令和5年度 保護林モニタリング調査結果 総括整理表

7. 風吹スギ遺伝資源希少個体群保護林

保護林名	風吹スギ遺伝資源希少個体群保護林	 プロット1 林況	 スギの稚樹	 ブナ実生
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局・中信森林管理署			
所在地	長野県小谷村			
面積	11.26ha			
設定・変更年	平成3年3月31日			
保護林概況写真		保護林の概要等		過去のモニタリング実施概況
	保護林の概要 (設定目的)	我が国有数の豪雪地帯に生育するスギ天然林は希少であることから、遺伝資源としてスギの個体群の保護・管理を図る。		結果概要 (調査実施項目・調査手法含む) H29保護林モニタリング現地調査 調査項目 ・森林調査(毎木調査・植生調査・定点写真撮影) ・植物相調査
	モニタリング実施間隔	10年		
	法令等に基づく指定概況	土砂流出防備保安林、鳥獣保護区		実施時期・回数 保護林モニタリング現地調査(H21, H25, H29)

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	全域が天然生林であった。
樹木の生育状況	資料調査/森林概況調査/森林詳細調査	植生被害は少なく、全体としては大きな変化は確認されなかった。スギ幼木の樹皮剥ぎが一部において確認された。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	大きな変化は確認されなかった。
病虫害等発生状況	資料調査/森林詳細調査	風雪害が一部で確認された。
論文等発表状況	資料調査	近年発行された文献が1件確認された。

評価・課題等	<p>林況に大きな変化は確認されておらず、更新木の生育も健全に推移している。 ただし、ニホンジカやイノシシ、ツキノワグマの痕跡が若干ながら保護林内で確認されていることから、今後も定期的にモニタリングを継続することが重要である。</p>
--------	--

令和5年度 保護林モニタリング調査結果 総括整理表

8. 鹿島ヒノキ等遺伝資源希少個体群保護林

保護林名	鹿島ヒノキ等遺伝資源希少個体群保護林		プロット1 林況		ツキノワグマのねぐら		遺伝資源保存林看板
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局・中信森林管理署						
所在地	長野県大町市						
面積	10.94ha						
設定・変更年	平成2年3月31日						
保護林概況写真		保護林の概要等			過去のモニタリング実施概況		
		保護林の概要 (設定目的)	我が国のヒノキ分布の北限部のひとつとして希少な天然林であることから、混交しているクロベ、ミズナラとともに遺伝資源として保存する。			結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)	H29保護林モニタリング現地調査 調査項目 ・森林調査(毎木調査・植生調査・定点写真撮影) ・植物相調査
		モニタリング実施間隔	10年				
		法令等に基づく指定概況	土砂流出防備保安林、砂防指定地			実施時期・回数	保護林モニタリング現地調査(H21, H25, H29)

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	全域が天然生林であった。
樹木の生育状況	資料調査/森林概況調査/森林詳細調査	植生被害は少なく、全体としては大きな変化は確認されなかった。ツキノワグマによる樹皮剥ぎやねぐらが確認された。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	大きな変化は確認されなかった。
病虫害等発生状況	資料調査/森林詳細調査	ツキノワグマによる立木への剥皮割合が増加傾向にあった。
論文等発表状況	資料調査	近年の学術研究等での利用は確認されなかった。

評価・課題等	林相に大きな変化は確認されていないが、保護対象種であるヒノキやネズコにツキノワグマによる剥皮が増加している。ツキノワグマのねぐらも確認されていることから、縄張り主張を目的とした剥皮と推測される。直ちに立ち枯れが生じるほどの剥皮被害は起きていないが、継続して被害を受ければ樹勢が弱り枯死する個体も生じることが懸念されるため、今後も定期的にモニタリングを継続することが重要である。
--------	--

令和5年度 保護林モニタリング調査結果 総括整理表

9. 湯俣キタゴヨウマツ・カラマツ遺伝資源希少個体群保護林

保護林名	湯俣キタゴヨウマツ・カラマツ遺伝資源希少個体群保護林		プロット1 林況		カラマツ実生		プロット1 土石流跡
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局・中信森林管理署						
所在地	長野県大町市						
面積	63.76ha						
設定・変更年	平成3年3月31日(平成8年区域拡張)						
保護林概況写真		保護林の概要等			過去のモニタリング実施概況		
		保護林の概要 (設定目的)	カラマツ、キタゴヨウマツ、コメツガが大群落を形成していることから、遺伝資源として保存する。		結果概要 (調査実施項目・ 調査手法含む)	H29保護林モニタリング現地調査 調査項目 ・森林調査(毎木調査・植生調査・定点写真撮影) ・植物相調査	
		モニタリング実施間隔	10年				
		法令等に基づく指定概況	土砂流出防備保安林、砂防指定地、中部山岳国立公園(第2種・第3種特別地域)、鳥獣保護区(普通地区)		実施時期・回数	保護林モニタリング現地調査(H21, H25, H29)	

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	全域が天然生林であった。
樹木の生育状況	資料調査/森林概況調査 /森林詳細調査	植生被害は少なく、全体としては大きな変化は確認されなかった。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	大きな変化は確認されなかった。
病虫害等発生状況	資料調査/森林詳細調査	大きな変化は確認されなかった。
論文等発表状況	資料調査	近年の学術研究等での利用は確認されなかった。

評価・課題等	<p>当保護林は、高瀬川源流沿いの右岸に指定されており、カラマツを主体としてキタゴヨウマツ、コメツガ、広葉樹等の混交する天然林である。枯損や剥皮等の目立った変化は確認されていないが、河川沿いの溪岸の崩壊が継続しており、川沿いは浸食され、一部の林分は立木と土砂が崩落し河原に変化している。隣接する鷲羽岳・硫黄・高瀬渓谷生物群集保護林ではニホンジカの被害が確認されているため、今後も定期的にモニタリングを継続することが重要である。</p>
--------	---

令和5年度 保護林モニタリング調査結果 総括整理表

10. 上高地ケショウヤナギ希少個体群保護林

保護林名	上高地ケショウヤナギ希少個体群保護林		プロット1 林況		プロット4 林況		ケショウヤナギ 若齢林
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局・中信森林管理署						
所在地	長野県松本市						
面積	50.90ha						
設定・変更年	平成3年3月31日(大正5年学術参考保護林)						
保護林概況写真		保護林の概要等			過去のモニタリング実施概況		
	保護林の概要 (設定目的)	ケショウヤナギは昭和3年に我が国で最初に発見された。ケショウヤナギは、国内では北海道のほか、長野県上高地周辺の限られた地域のみ分布する希少樹種であり、本種の群落及び更新可能な氾濫原となる砂礫地を保護する。			結果概要 (調査実施項目・ 調査手法含む)	H29保護林モニタリング現地調査 調査項目 ・森林調査(毎木調査・植生調査・定点写真撮影) ・植物相調査	
	モニタリング実施間隔	10年					
	法令等に基づく指定概況	水源涵養保安林、砂防指定地、保健保安林、中部山岳国立公園特別保護地区、特別史跡名勝天然記念物、鳥獣保護区(普通地区)			実施時期・回数	保護林モニタリング現地調査(H21, H25, H29)	

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	梓川沿いの河原が林地外であり、それ以外は天然生林であった。
樹木の生育状況	資料調査/森林概況調査/森林詳細調査	大きな変化は確認されなかった。一部攪乱の影響の少ない箇所のケショウヤナギの更新が進んでおらず、他の群落へ移行しつつある。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	大きな変化は確認されなかった。
病虫害等発生状況	資料調査/森林詳細調査	全体としては植生被害の状況は少なかった。
論文等発表状況	資料調査	近年発行された文献が1件確認された。

評価・課題等	当保護林は、梓川本流の中で最も川幅が広い明神橋から徳沢間に位置し、ケショウヤナギの稚樹や群落が生育する砂礫地、今後ケショウヤナギの更新が期待できる氾濫原が保護林に指定されている。ケショウヤナギの大径木があり林床が安定することで他樹種の群落に遷移している箇所や、増水時の攪乱によりケショウヤナギの実生が定着できなかった箇所など、当該樹種の更新が期待できない箇所も一部で存在するものの、明神橋～徳沢間の河原にはケショウヤナギの若齢林が発生しており、保護林全体として森林の更新は健全に推移しているとみられる。近年の台風等の増加や、夏場の濁水が河川植生に影響が及ぼす可能性が考えられるため、今後も定期的にモニタリングを継続することが重要である。
--------	--

令和5年度 保護林モニタリング調査結果 総括整理表

11. 梓湖希少個体群保護林

保護林名	梓湖希少個体群保護林		プロット3 林況		プロット6 林況		ミズナラ大径木
管轄森林管理局・署名	中部森林管理局・中信森林管理署						
所在地	長野県松本市						
面積	302.25ha						
設定・変更年	昭和41年4月1日(昭和41年風致保護林、平成3年植物群落保護林、平成8年梓川・霞沢、梓湖保護林に分割)						
保護林概況写真		保護林の概要等			過去のモニタリング実施概況		
		保護林の概要 (設定目的)	この地域を代表するミズナラ・カンバ等の天然生広葉樹の植物群落を保護する。			結果概要 (調査実施項目・ 調査手法含む)	H29保護林モニタリング現地調査 調査項目 ・森林調査(毎木調査・植生調査・定点写真撮影) ・植物相調査
		モニタリング実施間隔	10年				
		法令等に基づく指定概況	水源涵養保安林、土砂崩壊防備保安林、砂防指定地			実施時期・回数	保護林モニタリング現地調査(H21, H25, H29)

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	送電線沿いが林地外である以外は天然生林であった。
樹木の生育状況	資料調査/森林概況調査 /森林詳細調査	枯損木の増加が確認された。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	一部のプロットではディアラインが形成されているなど、民有林に隣接する箇所や低標高の場所ではニホンジカの被害が目立ち、稚樹が成長していない。
病虫害等発生状況	資料調査/森林詳細調査	全体としては植生被害の状況は少なかった。
論文等発表状況	資料調査	近年の学術研究等での利用は確認されなかった。

評価・課題等	<p>当保護林は、梓川奈川渡ダムの西岸沿いの北斜面に指定されており、山地帯上部のクリーミズナラ群落為主であり、ミズナラ、カエデ類等の落葉広葉樹に針葉樹が少数混生する天然林となっている。保倉山(1,570m)から東側に延びる尾根の南側は民有林となっており、ミズナラやシラカンバの落葉広葉樹林やカラマツ人工林が広がっている。民有林においてはニホンジカによる剥皮が目立ち、ディアラインが広域に認められる箇所もある。</p> <p>保護林内のうち民有林に隣接する場所や標高の低い箇所においてはディアラインが形成されており、ニホンジカの影響が顕著である。特にニホンジカによる剥皮被害はツガ等の針葉樹で目立ち、枯損木が増加している。また稚樹の不在が認められることから、健全な更新が阻害されていると推測される。</p> <p>また、イノシシによる堀跡(表土攪乱)も保護林内外において多く確認されている。</p> <p>今後、獣害による影響が増加し、植生への影響が顕著になるものと推察されることから、定期的にモニタリングを継続することが重要である。</p>
--------	--

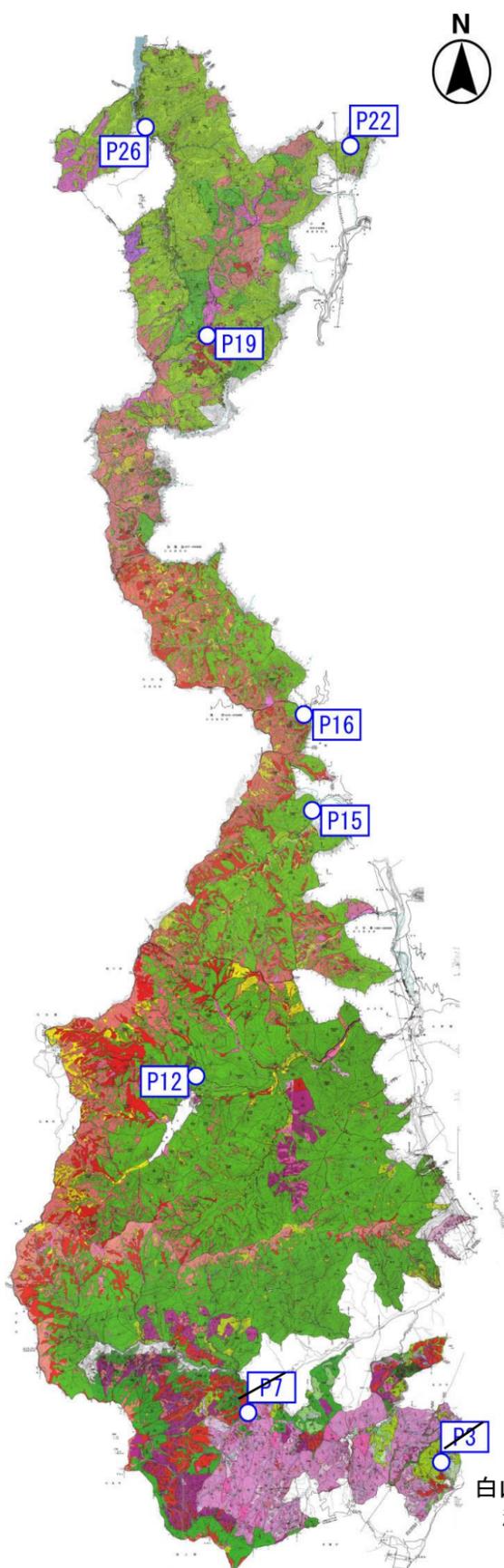
令和5年度実施した白山山系緑の回廊モニタリング調査のプロット確認について

○ 白山山系緑の回廊モニタリング調査について

(1) 経緯

令和5年度に予定していた請負による白山山系緑の回廊モニタリング調査について、請負による事業の公告・入札を2回実施したものの不落となった。

再度公告をした場合、調査に必要な期間が確保できないこと、鳥類生息調査の繁殖期調査の時期を逸してしまうことから調査成果が得られないと判断し、請負による調査の代わりとして、局署職員によるプロットや林内の状況確認を行う直営調査を実施した。



(2) 内容

令和元年度は、6つのプロットを対象に調査を実施している。

今回は、プロット22、26は富山森林管理署職員により、プロット12、15、16は飛騨森林管理署の各担当森林官と局計画課職員により現地確認を実施した。

なお、プロット19は、現在現地に到達するための林道が通行止めであるため、現地確認を実施できなかった。

凡例

区分	林種	林分の発達段階	記号	色区分
森林	タイプⅠ 天然林	林分成立段階	S I	赤
		若齢段階	NY	紫
		成熟段階	NM	緑
		老齢段階	NO	黄緑
		非老齢攪乱段階	ND	青紫
	タイプⅡ 人工林	林分成立段階	S I	赤
		若齢段階	P Y	紫点
		成熟段階	P M	緑点
		老齢段階	-	-
	タイプⅢ 混交林	林分成立段階	S I	赤
		若齢段階	I Y	紫点
		成熟段階	I M	緑点
老齢段階		NO	黄緑	
		非老齢攪乱段階	I D	青紫点
非森林植生	笹生地、灌木(5m以下)、 ハイマツ林、草地		D V	赤点
水系	河川、沢、池、沼、湿地		W	水色
裸地	岩石地、崩壊地、岩礫堆積地		R	黄
施設	国道道、林道		R D	黒

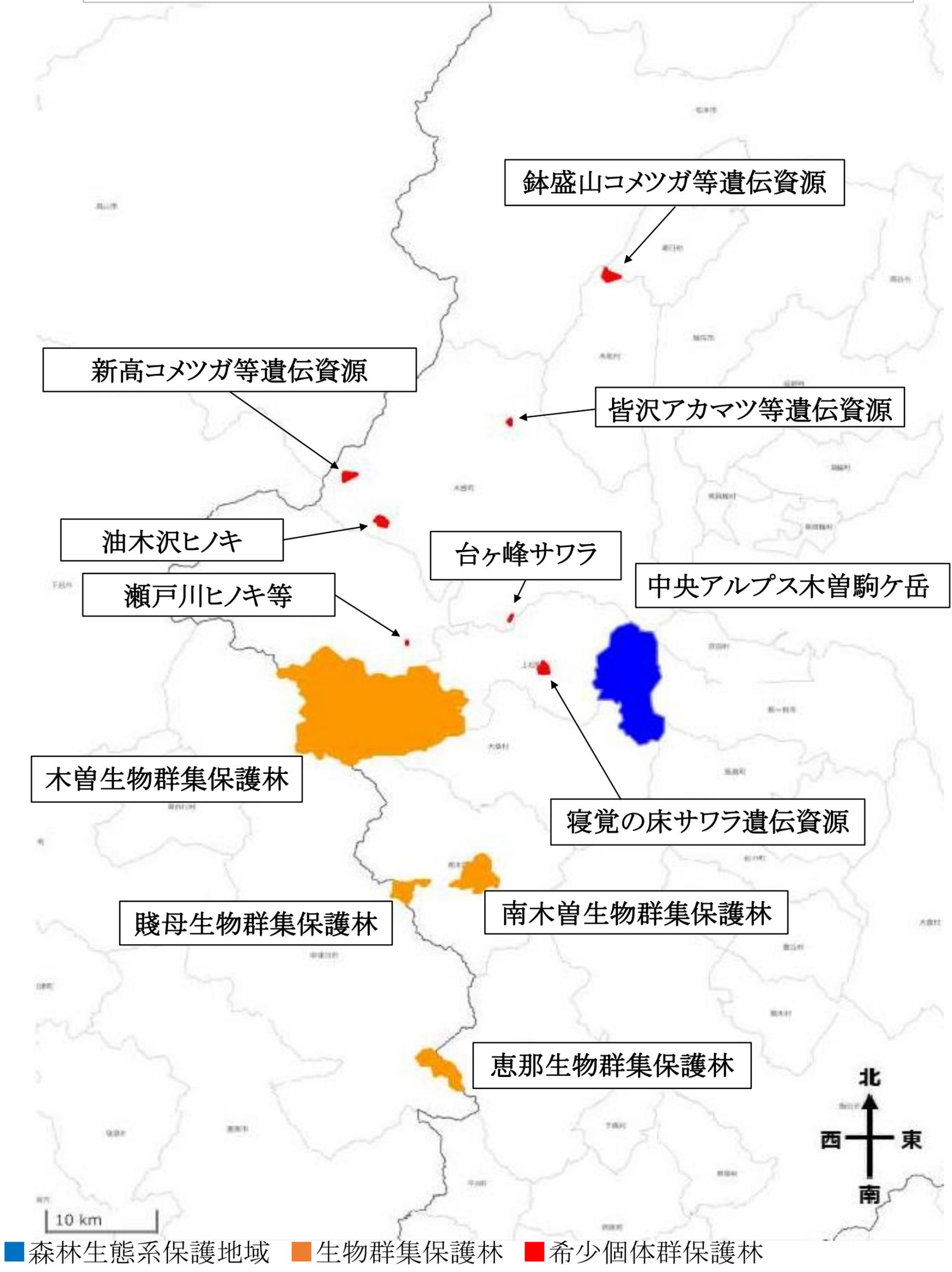
白山山系緑の回廊の林分と調査箇所概要図

注 P3、P7は令和元年度調査を実施していない。

令和6年度 保護林モニタリング現地調査計画について

	森林計画区	調査予定箇所	面積
1	木曾谷	中央アルプス木曾駒ヶ岳森林生態系保護地域	4,140.20ha
2	木曾谷/木曾川	木曾生物群集保護林	10,392.19ha
3	木曾谷	南木曾岳生物群集保護林	672.87ha
4	木曾谷/木曾川	賤母生物群集保護林	251.02ha
5	木曾川	恵那山生物群集保護林	492.21ha
6	木曾谷	皆沢アカマツ等遺伝資源希少個体群保護林	9.62ha
7	木曾谷	寢覚の床サワラ遺伝資源希少個体群保護林	57.25ha
8	木曾谷	瀬戸川ヒノキ等希少個体群保護林	2.24ha
9	木曾谷	台ヶ峰サワラ希少個体群保護林	7.20ha
10	木曾谷	鉢盛山コメツガ等遺伝資源希少個体群保護林	75.07ha
11	木曾谷	油木沢ヒノキ希少個体群保護林	48.80ha
12	木曾谷	新高コメツガ等遺伝資源希少個体群保護林	51.13ha

令和6年度 保護林モニタリング現地調査 位置図



報告資料

令和5年度 保護林に係る各種行為の委員会諮問状況

令和5年11月1日～令和6年1月31日

No.	諮問年月日	該当保護林	管轄署	行為内容		
				行為の区分	行為者	概要
R5-14	R5. 11. 15	御岳生物群集保護林	岐阜森林管理署	防災施設設置	下呂市長	火山防災施設（噴石避難用シェルター）設置 設置面積25㎡、支障となる植生なし
R5-15	R5. 12. 20	賤母生物群集保護林	東濃森林管理署	危険木処理	国交省中部地方整備局 多治見砂防国道事務所	モミ等伐倒38本 面積約0.09ha（約860㎡） 枝条処理約50本
R5-16	R5. 12. 25	大門山 希少個体群保護林	東信森林管理署	電線下支障木 伐採木処理	中部電力 パワーグリッド株式会社	伐採面積0.27ha 支障木359本：116.97㎡
R5-17	R5. 12. 25	浅間山霧上の松 希少個体群保護林	東信森林管理署	灌木、ササ等 の刈り払い	御代田町	ツキノワグマ被害予防のための緩衝帯の整備 町道（千メートル林道）の両側20m程度の幅員
R5-18	R6. 1. 25	北アルプス（蝶ヶ岳・ 大天井岳・槍ヶ岳・穂 高岳）生物群集保護林	中信森林管理署	公衆トイレ建設 支障木伐採	(有)日本アルプス 常念小屋	ダケカンバ3本 （直径10～16cm、樹高4～6m）の伐採 公衆トイレ建設 319.23㎡

※ 各行為の諮問については、委員代表に行なった。